

## 淀川水系がもつ多様な価値の再生と創造を目指した 「淀川流域エコミュージアム」構想の提案について

淀川 21 世紀ビューロー、枚方市

現在、淀川水系流域委員会では河川レンジャー制度など市民参加のあり方が議論されていますが、これに関連して下記のとおり「淀川流域エコミュージアム構想」の提案をします。この提案のポイントは、対象となるエリアや分野を広げて誰もが気軽に参加できるようにすること、多様な主体の連携と協働の場を用意すること、地域の活性化につながるようにすることです。

また、市民参加のあり方の検討に当たっては、広く市民やNPOからの意見やアイデアを募り討論することが効果的であり、これに関する対話集会の開催を希望します。

### 「淀川流域エコミュージアム」構想

#### 1. 「淀川流域エコミュージアム」構想の経緯

・「淀川流域エコミュージアム構想」は、平成15年3月に開催された第3回世界水フォーラムにおいて、NPO法人「淀川21世紀ビューロー」が主催、枚方市等が共催した「水と交通・淀川舟運」分科会の中で、その理念が提唱された。

#### 2. エコミュージアムとは

・エコミュージアムとは、地域固有の魅力を掘り起こし、それをまちづくりに生かしていくための仕組みと活動であり、地域全体を博物館に見立て、多様な主体の参加と連携によって地域の自然・歴史・文化資源の発見・研究・保全・展示を行うものである。

・その特徴としては、

資源を収集するのではなく、現地にあるがままを保全・展示する。

「モノ」だけではなく、生活・文化・記憶・環境も対象となる。

市民と行政のパートナーシップにより運営される。

地域や組織・分野などの枠を超えた総合的な取組みを行う。

・通称として、「地域まるごと博物館」、「だれでも・どこでも博物館」など。

#### 3. 「淀川流域エコミュージアム」の目的

- ・淀川水系流域委員会の提言の前文では、淀川水系は「古くから人間がこの水系の恵みを利用して豊かな社会、文化を築いてきた文明展開の場」であり、「失われつつある淀川水系の自然・文化を取り戻し、次世代に継承していかなければならない。」と述べられている。
- ・そのためには、淀川水系との関わりの中で育まれてきた自然・歴史・文化全般に渡る多様な地域資源の価値を改めて見直し、これらを人々の共有財産として位置づけていく必要がある。
- ・また、市民・行政・事業者の協働によるこれらの取組みが、地域での新しい提案や実践的なまちづくりの活動につながっていくことが期待される。
- ・これに関連して淀川水系河川整備計画（第1稿）では、河川レンジャー制度の設置が掲げられているが、さらに流域全体を対象とした多様な主体による多彩な活動を促進するための仕組みづくりと組み合わせることが効果的である。
- ・「淀川流域エコミュージアム」は、淀川水系がもつ多様な価値の再生と創造を通じた淀川流域の地域活性化（持続可能な社会の実現）への寄与を目的として、市民・行政・事業者の連携と協働により、淀川水系に関わる地域資源の発見・研究・保全・展示を行うものである。

#### 4. 「淀川流域エコミュージアム」の対象となる地域資源

##### （自然的資源）

淀川水系の自然

淀川水系の自然と生態系ネットワークを形成する周辺地域の自然

自然とふれあうための場所・知識・人材

自然とのふれあいや自然再生の手本となる全国各地の事例など

##### （歴史・文化的資源）

人々の暮らし

- ・川遊び、衣食住、祭り、伝承、習俗、制度、宗教、町並み、名水など

産業

- ・漁業、農業、舟運、酒造、工芸、商業など

芸術・史跡

- ・庭園、茶の湯、絵画、文学、芸能、歴史街道、社寺、史跡など

過去の水害に関わる体験・記録

- ・過去の水害を体験した人々の体験談や記録

治水・利水に関わる歴史的な構造物・工法・記録

- ・ワンド、運河、閘門、用水路、堤防跡、廃川敷、井戸、記念碑、治水工法など

景観

- ・堤防・河川敷・水上から見た景観、川を見下ろす周辺のビューポイント

観光・レクリエーション

- ・散策、自然観察、釣り、キャンプ、サイクリング、ジョギング、舟運など

研究・学習・展示施設

- ・博物館、資料館、学校、研究所など

現在の淀川水系を構成・関連する施設

- ・堤防、護岸、ダム、堰、ポンプ場、水門、用水路、上下水道、船着場、橋など

淀川水系を活かした新しい文化の創造

- ・ヨシの活用（葦船・ストローハウス等）、エコツーリズム、各種体験イベント

各種活動に関わる知識・組織・人材

その他

5. 「淀川流域エコミュージアム」のプロジェクト概要

淀川流域エコミュージアム・フォーラムの設置

- ・NPO・国・関係自治体等による実行委員会方式で構成
- ・多様な主体の連携と協働を通じたエコミュージアムの活性化を図るため、フォーラム連携プロジェクトの企画・調整・運営等を実施

フォーラム連携プロジェクトの例

- ・インターネットによる各種資源・施設・イベント・人材等の紹介・検索システム
- ・エコミュージアム・マップ
- ・リレー・ワークショップ（資源の発見・研究・活用、川遊びなど）
- ・インタープリター養成講座
- ・NPO活動への支援・助成
- ・沿川レンタサイクル広域運用システム
- ・レンタル・カヌー広域運用システム
- ・舟運運航システム
- ・エコツーリズム
- ・スタンプラリー
- ・各種交流会、シンポジウム、講演会、展示会 など

（ 以上のフォーラム連携プロジェクトのほかに、各地各自で多様な活動が展開され、それら様々な活動の全体が「淀川流域エコミュージアム」となる ）

第3回世界水フォーラムで淀川に関連して行われた広域連携活動の継承

- ・琵琶湖・淀川流域連携実行委員会等による舟運体験、スリーデイマーチ、シンポジウム、人的ネットワークなど

河川レンジャー制度との連携

- ・国土交通省が実施を予定する河川レンジャー制度に対して人材や情報を提供、または河川レンジャーの業務の一部を国土交通省から受託するなど

淀川資料館等の有効活用

- ・淀川沿川に位置する淀川資料館等を改築・活用し、その一部を淀川エコミュージアム・フォーラムの事務局及び各種活動の場所として活用